さっけんセミナー

令和7(2025)年10月21日(火)

開催概要

北海道開拓や戦後のまちづくりの歩みと切り離して語ることはできない、私たち札幌開発建設部が担うインフラ整備の歴史。

今回の「さっけんセミナー」では、街歩き研究家の和田哲様を講師に迎え、地域の成り立ちを歴史秘話と共に学び、日々の仕事や生活の中で見過ごしがちな「まちの成り立ち」を知ることで、地域づくりの新たな視点やヒントを見つける機会となりました。

【演題】川と道のおもしろ歴史散歩

【講師】街歩き研究家
北海道科学大学工学部都市環境学科 客員教授　和田 哲 氏

【参加】187名（会場73名、オンライン114名）

＜講師略歴＞

1972年札幌市生まれ。市電沿線で電車を毎日見ながら育つ。
古地図や古写真、道路のずれから札幌の歴史をひもとき、雑誌連載やYouTube、講演活動などで発信している。2015年にNHK「ブラタモリ」　札幌編で2人目の案内人を務め、現在は地元テレビやHBCラジオ「朝刊さくらい」（毎週金曜日）などに出演中。

北海道の発展を支えた川（かわ）と道（みち）に焦点を当て、10のエピソードで構成された講演では、北海道内の道路、河川、都市景観、地名といった身近なテーマを切り口に、インフラの技術史に留まらない、その背後に隠された社会・経済・文化的かつダイナミックな歴史物語をご紹介いただきました。

①旭川の巨大ロータリー
②寺が無償で造った国道230号
③日本一低い分水界
④豊平橋奮闘記
⑤アツベツとアシリベツ
⑥アンパン道路
⑦幻の大運河
⑧岩見沢は本当に「ゆあみ沢」なのか
⑨滝川の不思議な碁盤の目
⑩夕張北高最後の卒業式
⑪おまけ～苫小牧は苫小枚？

それぞれの物語から、現存するインフラは、明治期の財政難・国防・開拓といった時代の要請を色濃く反映していること、都市を形成する地形と人の営み、盛衰の記憶と地域の誇りを継承することの重要性を学びました。また、私たちが日常的に接するインフラや景観の礎は、先人たちの情熱や苦悶であり、地域に脈々と語り継がれている先人たちの思いを、インフラ整備に携わる私たちも引き継ぎながら、将来に向かって事業・事務を進める責務があることを再認識する機会となりました。

参加者から（感想等）

【参加者】昔の道路や地形は、日頃どのような経緯で発見されることが多いのでしょうか。

【和田氏】講演活動などを通じて、高齢者や地域の方々から本には載っていない貴重な情報を得ることが多いです。

【参加者】最近は、建物の中で仕事をする時間が増えているところ、講演を伺って現地に行くことの重要性をあらためて実感しました。

【和田氏】100年ほど前に夕張川が付け替えられた南幌町の現場を先日訪れました。当時の技師の方が、そこから江別の製紙工場の煙突を眺めて「あの煙突を目標に新水路を掘ろう。」と言ったという話が本に書かれており、私も同じ場所から眺めてみたところ、そのとおり夕張川の一直線上に煙突が見え、この話が本当であると確認できました。現地に足を運ばなければわからないということをまさに実感したエピソードのひとつです。

【参加者】「千歳越え」について、途中の陸路は船を担いで進んだのでしょうか。

【和田氏】小型の船は、陸路を引いて運ぶこともありましたが、大型船の場合は、荷物を馬車に積み替えて陸路を進み、新しい船に再び荷物を積んで運んでいたようです。

【参加者】夕張北高校のエピソードは、地域の栄枯盛衰を象徴する内容で、深く感動しました。

【和田氏】私は、大学生の時にこのニュースを見て感動し、後にSNSを通じて発信したところ、夕張市の厚谷市長をはじめとする最後の卒業式で演奏した方や、当時取材をされたディレクターと繋がり、このエピソードを語り継ぐきっかけになりました。

【さっけんセミナーに関するお問合せ】北海道開発局札幌開発建設部地域連携課
電話 011-611-0281(直通)　メール hkd-sp-sakken-81h@gxb.mlit.go.jp

共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画